



# 祝敬老会

令和5年9月10日(日)淡路ふくろうの郷で敬老会を行いました。まず、狭間施設長が、感謝とお祝いの挨拶をされ、次に、淡路ふくろうの郷、最高齢102歳、薩摩勲様を初めとする、10名の節目祝いの方々に色紙を進呈されると仲田久子様は、まだまだ長生きしますと感動され涙ぐまれていました。次に、ふくろう座の歌と踊りを観られながら、入居者の皆様も手や体を動かして元気に踊られていました。中でも、庄崎さんのカメラから似顔絵が出てくる場面には、皆さん驚き、感動され喜ばれました。



社会福祉法人  
ひょうご聴覚障害者  
福祉事業協会  
〈発行〉  
特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会  
〒656-0002  
洲本市中川原町中川原28番地1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページリニューアルしてまいりますので、よろしくお問い合わせください。

午前部では、自治会副会長でもあり、米寿の吉見輝子様がお礼と、まだまだ皆さんこれからも元気で頑張りましょうと力強く挨拶されると、同時に他の入居者の皆さんも頑張ろうと答えられ感動しました。

昼食のお弁当は、お赤飯と色とりどりの品があり、薩摩勲様も、よく召し上がり満足そうな様子でした。

午後部では、自治会会長の松崎恵子様、みなさんおめでとうございませうと挨拶されていきました。

いついつまでも、健やかに、楽しく、笑顔で暮らして頂ける様にと、今後も努めていきたいと思えました。

(生活援助員 東原 裕己)



▲薩摩氏



## おめでとうございます。



▲新居様(喜寿)・吉見様(米寿)・森様(米寿)・柴野様(白寿)・薩摩様(最高齢:102歳)



▲宮崎様(喜寿)・石川様(米寿)・長野様(米寿)・大北様(米寿)・仲田様(米寿)

今年猛暑日が続く、9月に入っても一向に気温が下がらなかった。ところが彼岸前後から朝夕涼しくなった。暦ですでに秋。ふくろうの杜の野菜販売に南瓜、さつまいもが並び、ホクホクした食べ物が恋しくなる季節だ。南瓜の収穫時期は夏だが、追熟させた秋が食べ頃。さつまいもは、収穫して食べ頃は追熟させた年明けらしい。何気なく目に入った南瓜とさつまいもに食欲の湧く思いがした。まさに「食欲の秋」ということだ。

# ふくろう物語 西山明廣様

昭和29年6月12日南あわじ市北阿万の農家の家に生まれました。現在69歳。7人兄弟の6番目です。家族みんなは聞こえますが、ご自身のみ聞こえません。小学1年から中学3年まで寄宿舎で暮らしながら通学をしていました。長期の休みの時だけ、実家に帰っていました。

中学卒業後は、島外に出て、住み込みのクリーニン  
グ屋さんで働き、20歳から



▶喫茶に参加された西山さま

定年の60歳まで電気部品の会社に勤めていました。平成27年の3月末で定年退職しました。平成23年頃から糖尿病の影響で、色々病気になる退職前の7か月間も入院して結局入院したままの退職となりました。

退職後は、淡路に戻り、兄と二人暮らしをしていました。週2回の点滴とリハビリにご自身で通院に行っていました。家のことは、兄に頼り切っていたそうです。気候の良い時は、自宅周辺を散歩するようにしていました。

### ろうの仲間と出会い

特に楽しみもなく過ごしていましたがおのころの家に見学に行ったとき、同じろうの仲間と会い、表情も明るくなり、交流や外出を楽しみたいという気持ち芽生えました。

平成27年末ごろ、おのころの家を利用。

◀書道講座にて



平成28年7月入院、透析開始となりました。週3回介護タクシーを利用し、通院していました。平成29年2月、白内障の手術の後、

桜ヶ丘デイサービスを利用していました。令和4年1月発熱による身体機能の低下があり、緊急ショート利用、令和4年3月から他施設のロングショート利用となりました。回復すれば在宅予定でしたが、自力歩行までの回復は見込めず、また、兄の体調もすぐれず施設入所の方で検討開始となりました。

令和4年11月からふく

ろうの郷のロングショート利用を経て、令和5年2月よりふくろうの郷に長期入居となりました。

特技を尋ねてみると、特技はないが、野球観戦が好きとのこと。今後どんな生活を望みますか？と、お聞きすると、「みんなと手話でお話したい。美味しい物を食べ、のんびりと暮らしたい。」と話されていました。西山さまの希望に添える支援をしていきたいと思えます。

(生活援助係 伊達美紀)

## 職員研修

### 『盲ろう者支援について』

9月26日(火)、職員全体会議の時に、NPO 法人兵庫盲ろう者友の会の平井裕子事務局長を講師に迎え、研修を行いました。研修のねらいは、①盲ろう者の困難について学ぶ②盲ろう者支援を考える、の2点でした。

参加した職員からは「アイマスクをつけて、盲体験をしてとても怖かったので、この気持ちを今後のガイド支援で役立て、配慮していきたい。」「コミュニケーションを取る時、自分が誰であることを伝え、それから言葉を伝えることは、当たり前だが改めて大切だと体験を通して感じた。」「手のひらに文字を書くときは、相手の方向で書き、相手の指を使ったり、相手の表情を見ながらスピードや大きさを工夫していきたいと思った。」「盲ろう者の方に何かを伝える際には、予告することの重要性を感じたと同時に、自分自身の行動にも余裕を持つ必要があると感じた。」「今まで自分が相手の気持ちを考えずに一方的に話していたのかを研修を受けて気づかされた。」等の感想が聞かれました。今回学んだことを、毎日の支援につなげていきたいと思えます。

淡路ブロック  
老人福祉事業協会研修

9月22日淡路ブロック老人福祉事業協会主催の研修会に参加してきました。今回のテーマは「認知症ケアと住環境・業務環境改善」で、福祉環境アドバイザーの矢作聡様と、兵庫県福祉のまちづくり研究所主任で作業療法士の福元正伸様の講義を聞かせていただきました。矢作様の講義では現在お母さまの介護をされていることもあり、ご自分の体験を交えて認知症の方の「表現行動」についての話でした。一人一人をよく観察し、心地よい時間を作り出す。笑顔で接し否定せず、自信を持つてもらおうことで安心される支援を行う。改めて考える機会を持つことが出来ました。人員不足ではありますが、多くの職員が外部の研修を受ける機会を持てる工夫をしたいと思えます。

(副施設長 加野明宏)

五色中学校福祉学習

9月28日(木)五色中学校2年生の福祉学習へ講師として行ってきました。中学2年生の生徒数は全員で約60人。高齢者・視覚障害・聴覚障害という3つのテーマから1つ選択したところ、どのグループもだいたい同じ人数になったそうです。

授業が始まる前に、先生から夏休みの間に当事者に質問する内容を考えたり、手話歌の練習をしたりと準備していますと聞いていました。当日は、皆さん手話で自己紹介をして、前もって大きな字で質問内容を書いてくれました。質問は、「聞こえなくても、車の免許は取れますか?」「生活するうえで困ることは何ですか?」「公的施設にあるといいのは、何ですか?」等、どれも当事者の私たちが知ってほしい内容で、できるだけわかりやすいようにと心がけてお話しさせていただきました。実際に使っている福祉用具を持参し、より身近に感じてもらおう工夫しました。

また、公的施設にあるといいものについては、淡路市、洲本市、南あわじ市の三市にアイドラゴン機器(情報保障)を置いてもらえるようお願いしていることを伝えました。避難所に避難したとき、テレビに字幕があったり、手話がついたりしていれば情報が正しく伝わり安心できるからです。「音がある、放送がある。そんな時は、教えてください。一番困るのは、暗いところです。私たちは視覚的に情報を知ります。停電や明かりのないところでは、手話も見えないし、筆談も出来ないもので、一番困ります。」など、一人一人の質問に説明しながら、答えました。皆さん真剣にお話を聞いてくださいました。最後に手話で歌を歌ってくださいました。音楽が聞こえない私には、理解できなかったですが、最後まで上手に表現されていました。良い交流が出来ました。ありがとうございます。

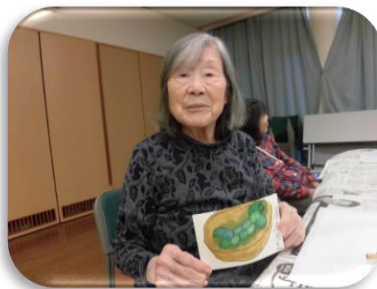
(生活援助係 伊達美紀)

10月 ふくろうの暮らし

- 10/2 (月) ふくろう理髪店
- 10/3 (火) ふくろう大学演劇講座
- 10/4 (水) 誕生日会
- 10/11 (水) ふくろう大学手話講座
- 10/12 (木) 回想法
- 10/14 (土) ふくろう大学書道講座
- 10/17 (火) ふくろう大学  
絵手紙講座
- 10/18 (水) ふくろう工房喫茶



ふくろう大学紹介



▲ さつまいも、なすび、豆などの絵手紙を書きました。



▲興味のあるテーマだけど難しかったと参加者

### 第4回社会生活教室

## 健康保険証廃止でどう変わる？

9月2日(土) 洲本市総合福祉会館で開催。今回は兵庫手話通訳問題研究会「出前いのち」との共催で「健康保険証廃止でどう変わる？」とのテーマで兵庫県保険医協会の川西敏雄先生からお話をお聞きしました。

**淡路聴覚障害者  
センター**  
便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

### ■マイナカードでの受診

#### トラブル続出

政府が推し進める背景には国民の資産を把握し増大する国の社会保障負担を減らした総勢36名の参加でした。今い、公的医療への民間事業者年6月に現行の健康保険証の参入など新たな利権の構造を来年秋に廃止し、マイナがあること、また、身分証明バーカードに一本化する法案書と健康保険証が一体となつが可決成立しました。誤登たカードは世界に例がないな録や情報の漏洩、「資格無ど、川西先生からは国民皆保効」と表示されるなど、マ険制度である公的医療の質のイナンバーカードでの受診低下が危惧されるマイナ保険トラブルが続出し、不安を証は問題が多いとお話があ抱えカードの返納が相次いりました。

身近な保険証についての講でいると報道でも取り上げられてます。また、障害者団体からは不随意運動に深き聞き入り「福祉医療証はより顔認証がされずエラーどうなるのか？前期・後期高になつたり、高齢者施設で年齢者の保険証もマイナ保険証のマイナ保険証の取り扱いに移行するか」等、質問も相漏洩といった管理体制につ完全な保険証が廃止され、いて職員の責任が重くなる資格無効などのトラブルで窓など医療現場、福祉の現場口での全額負担や適切な医療も混乱し、反対する声はほが受けられないなどの不利益とんどとなつています。

### ■マイナ保険証推進の背景に新たな利権構造

を考えさせられる学習会でした。(瀬田 栄美)

### 第15回「みんな集まれ わっはっは♪」



▲「わかるかな？」とつないでいく

8月26日(土) 中川原高

年齢者がい者地域ふれあいセンターで「みんな集まれわっはっは♪」を開催し、2家族7名の参加がありました。久しぶりに集合しての開催となりました。

まず、庄崎職員が言葉を使わなない身体を使った手遊びを輪になって行いました。伝言ゲームのように、最後まできちんと伝わったかどうか確認をする、途中で間違つていたり、段々難しくなり、「どうだったっけ？」となるなど

参加者は大いに盛り上がり、

いました。

次にすいか割りゲームを家族対抗で行いました。「もうちよつと右」「少し下がつて」などと声援を頼りに、位置をしっかりと確認するのですが、実際、すいかボールには当たらず意外と難しいよう、簡単そうで当たらない、そのギャップが逆におもしろく楽しめているようでした。



当たるかな

保護者からは、もつとたくさんの人達と繋がりが、色々な体験ができれば良いと、の声をいただき、島内に点在している聞こえない・聞こえない児童・保護者の交流の場として定着できるよう、関係機関と連携を図りながら取り組んでいきます。

(瀬田 栄美)

# ふれあいフリーマーケットに出店参加しました

中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター



☎ 656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992



9月24日(日)午前10時から午後4時、洲本市防災広場にてわくわくふれあいフリーマーケットが行われ、焼き菓子・手作り品の販売をしました。出店している人たちは島内外から多勢来られており、高知県からも来られていました。



朝晩涼しく過ごしやすくなったとはいえ、日中はまだ暑く冷たい飲み物に喉を潤わしながらの販売でした。暑さのせいやお客様の数は今いちでしたが、多勢来て下さり、みなさんと久しぶりの再会を喜び、懐かしい一時を過ごしました。売上げは1万4千円程と少なめでしたが、コロナ前の活気は戻りつつあるように感じました。また10月の販売行事がいっぱいあるので、ぜひご参加お待ちしております。

(おのころ屋支援員 藤本)

## 独り暮らしの交流会 歌さんぽさん演奏会に参加

9月26日(火)14時、デイサービススペースにて毎月レク活動でお越しいただいている小林先生が三味線演奏で来訪してくださいました。三味線と歌声を披露してくださるだけでなく、おのころの家・デイサービス利用者さん、地域の方及び民生委員さんで歌ったり演奏に合わせ



12月9日～10日、第27回全国聴覚障害者福祉研究交流集会在埼玉で開催されます。おのころの家からは、第2分科会「発達を支える(労働・発達・こころとからだの健康・集団作り)」でレポート報告を発表します。

(発表者：山田職員)

て炭坑節を踊りで参加させていただいたりと楽しいひと時となりました。  
(おのころの家支援員 興津)



## 10月のイベント行事(販売)のお知らせ

- 10月 8日(日) 10時～15時 洲本市社協ふれあいまつり (会場：洲本市総合福祉会館)
- 10月28日(土) 11時～15時 兵庫県聴覚障害者文化祭 (会場：神戸市灘区民ホール2F)
- 10月29日(日) 13時～16時 東播ブロック学習会 (会場：淡路市しづのおだまき会館)



